



ボクが25歳のとき、母が言った  
「写真をしないなら店をたたむから」と。  
あのときの母の澄んだ瞳を決して忘れない。  
父と母に育ててもらった「愛」を初めて実感したのです。  
これからはボクが助けなければ。

寺坂 善雄 × 大地

UP! SPECIAL HAPPY is FAMILY vol. 12

UP! SPECIAL  
HAPPY is  
FAMILY

ボク（寺坂大地29）はずっとテニスをやってきました。テニスはいいですよ、品のあるスポーツです（笑）。テニスから「あきらめないこと」を学びましたね。高校1年から始めています。錦織圭さんのようにうまくはありませんよ（笑）。地元徳島でも無名な選手でした（笑）。父（善雄65）もスポーツマンでスキーをやってきました。ボクも父も文化系の優しさはやや乏しいかもしれませんが（笑）。体育会系の「切り替え」と「粘り」はあるほうです。身体を動かすことがスキで将来はスポーツ系の仕事ができたらいいなあって思っていました。25歳のある日に母が少し真剣な表情で「大地が店を継がないならこの店をたたむからね」と言われ、正直、ボクは頭が真白になりました。「大地は自分の好きなことをやればいいよ」と以前から言っていたはずなのに。写真のことなどまったく考えてもいなかった。「写真って全然知らんけど、どうしよう?」「お父さんの出身校で勉強したらどう?」答えを出すのにそんなに時間はかからな

かった。「大阪に行くから」と決心したら父と母の口元が少し緩んだようにも見えた。写真に入って気づいたことなんです。写真表現は幅が広くて深い世界なんだと。授業で人を写すだけではポートレートにならない、と教えられました。学生時代の夏休みに実家に帰って知りました。父の撮る子どもたちのポートレートは「優しく心から微笑んでいる」。父から写真はこのような撮るんだと指導してもらったことはありませんが父の撮った写真からいっばい学びました。ボクが卒業して父と共に学校へ撮影に行く子どもたちが父のところに飛んでくるんですよ。純粋な子どもの心が父と通い合っているんですよ。これには驚きと感動でした。「あつ、この気持ちが写真に写るんだ」。今はボクのやることには特に何も言わず、黙って応援してくれている父ですがボクは尊敬しています。（は）

最近では中学生、高校生に「てらちゃん」と呼ばれるようになりました。嬉しいことでもあり、少し照れくさい感じですが、これって彼らとの距離感が縮まったのでしょうか。

店名は「写真室 D&M」このDは大地、このMは妹の未来(28)、両親が子どもたちの名前から付けました。お店をもっともっと大きくしようとは思いませんが父が大切にしてくれた「本当の笑顔」をいつまでも大切に守ってまいります。

